

令和3年度 第2回外国人指導研究部研修会

令和3年8月6日（金）

於：浜北文化センター

大会議室

研究主題

自分を見つめ、子どもを見つめる 多文化共生社会で一人一人の学ぶ力を高める指導
～日本人児童生徒との温かな関わりを基盤にした在籍学級での学びを目指して～

前回に引き続きコロナ禍の開催であり、感染予防対策を講じながら準備を進めていました。しかし、浜松市内の「感染拡大宣言」「まん延防止重点措置」等の状況を受け、残念ながら、直前に研修会の日程を変更することになりました。

午前中は、目白大学 専任講師 近田由紀子先生から「外国人児童生徒等教育の動向」をテーマに、オンラインにて御講義いただきました。午後も引き続き、近田先生から御指導いただきましたが、参加は運営委員のみとなりました。授業づくりのワークショップを行いました。運営委員が作成した指導案は、各校にお送りしました。今後、各校の実態に応じて活用してもらい、実践についての情報交換を紙面にて行っていく予定です。

1 <午前部>

講義「外国人児童生徒等教育の動向」

講師：目白大学 専任講師 近田由紀子 氏



オンラインはスムーズにつながり、音声もはっきりと聞こえました。参加者は、熱心にメモを取り視聴していました。

初めに、「外国人児童生徒等教育の現状と課題、国の施策」として、外国人児童生徒等が置かれている現状と国や自治体の動きについて分かり易く説明していただきました。

「学習指導要領総則」に外国人児童生徒等教育について記載されたことを基に、「全ての教員が協力しながら学校全体で取り組む体制を構築すること」、「外国につ



ながる児童生徒等と学ぶことを通し、日本人児童生徒にとっても豊かな学びになるように努めること」などについてお話いただき、大変勉強になりました。市内のどの学校でも「外国人指導」について研修を深めていこうという共通意識に繋がったと感じます。

次に、「子どもの実態の把握と日本語と教科の統合学習」についてお話いただきました。外国人児童生徒等の実態を多面的に捉え、ニーズに合った支援法を見出していくことの大切さを学びました。「個々の児童生徒の実態に応じた個別のカリキュラムの作成を前提とする」、「日本語を教科学習の場面から切り離さずに学習場面をつくる」、「具体物や直接体験により学びを支える」、「対象児童生徒の学習参加を支援するために日本語表現を調整し、明確化する」、これらを意識して、日本語で学習活動に参加する力を身に付けることができるよう努めたいと思います。

最後に、授業動画（外国人児童教科指導員 川合あゆみ先生のJSL算数科）の視聴をし



ながら、JSLカリキュラムの指導ポイントを確認しました。日本語の指導と教科の学習内容を結び付けて指導している様子がよく分かりました。参加した多くの先生から、「どのような授業展開をしていけばいいのか具体的なイメージをもつことができ、大変勉強になった」という声が聞かれました。

講義終了後の質問タイムでは、大勢の先生からいろいろな質問がありました。

一つひとつの質問に対して、近田先生が丁寧に答えてくださり、研修が深まりました。

2 <午後の部>

ワークショップ 「授業づくりにチャレンジ!～日本語と教科の統合学習～」



午後は、運営委員が2～4人程度の五つのグループに分かれ、授業づくりに挑戦しました。

引き続き、近田先生にオンラインにて御指導をいただきました。浜松市教育委員会指導主事 古橋 水無先生も、各グループを回り、質問に応じてくださったり、支援のポイントを助言してくださったりしました。

グループは、以下の通りです。

- ・小1国語科「うみのかくれんぼ」
 - ・小3国語科「すがたをかえる大豆」
 - ・小5算数科「単位量あたりの大きさ」
 - ・中2国語科「根拠の適切さを考えて書こう」
 - ・自由コース 「自分で選んだ教科・単元」
- 協力して指導案を作成しました。





どのグループも熱心に話し合い、よりよい授業を目指して、指導案づくりにチャレンジしました。

日本語の目標設定が重要であるため、そこは、特にじっくり話し合いました。

教科の目標を達成するために、どんな日本語の語彙、表現、文型を指導すればよいのかを話し合って設定しました。

後半は、グループ毎に発表し、情報共有を行いました。



グループごとに知恵を出し合って作成した指導案です。どの授業も、児童生徒の強みを生かし、興味を引き出すことができるよう工夫されていました。

近田先生から、題材の選び方や日本語の目標設定とその支援に対してなど、様々なアドバイスをいただきました。

後日、完成させた指導案を部員の皆さんに、お送りしました。

各校の実践の参考となれば幸いです。

※午前の部が終了した後は、浜松市教育委員会 指導主事 古橋 水無先生から、対象校にポケトークが配布されました。児童生徒の支援や相談、保護者との情報交換などに有効活用していきたいと思えます。